

第1学年 算数科学習指導案 (習得)

平成 年 月 日 ( ) 第 校時

1 単元名 たしざん

2 単元の目標

- 数の構成の仕方を工夫しようと考えたり，進んで計算に取り組んだりする。(関心・意欲・態度)
- 20までの数の構成や10の補数に着目して計算の仕方を考え，ブロック等を用いて説明することができる。(数学的な考え方)
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。(表現・処理)
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。(知識・理解)

3 指導計画 (全11時間)

次	時	型	主な学習内容	主な評価規準
1	1	活用	9 + 4の計算の仕方をブロックを使って考える。	(考) 繰り上がりの計算の仕方について，10のまとまりをつくることに着目して考えている。
	2	習得	被加数が9の場合の計算に取り組み，加数分解による計算の仕方をまとめる。	(知) 加数分解による計算の仕方をブロックで操作し，計算図にすることができる。
	3 本時	習得	8 + 3の計算の仕方を考え，被加数が8の場合の計算を加数分解の方法で練習する。	(知) 被加数が8の場合でも，10のまとまりをつくれればよいことを理解している。
	4	習得	7 + 6の計算の仕方を考え，繰り上りのある加法(被加数7～9)の計算練習をする。	(知) 被加数が7の場合でも，10のまとまりをつくれればよいことを理解している。 (表) 加数分解による計算が確実にできる。
2	1	活用	3 + 9の計算の仕方を考え，被加数を分解して計算する方法を知る。	(考) 被加数，加数の大小に着目しながら10のまとまりをつくることを考えている。
	2	習得	被加数が加数より小さい場合の計算を被加数分解の方法で練習する。	(知) 被加数分解による計算の仕方を理解している。
	3	習得	繰り上がりのある加法計算で加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算する。	(表) 被加数と加数の大きさに応じて，加数分解と被加数分解の方法を使い分けて，正しく計算することができる。
	4	活用	具体的な場面を基にして，被加数分解や加数分解の計算の仕方を表した絵本をつくる。	(考) 合併や増加の問題文をつくり，ドット図で被加数分解や加数分解の計算の仕方を表すことができる。
3	1	習得	計算カードを使った練習や「かあどあそび」をする。	(関) 計算カードを使った練習や「かあどあそび」に進んで取り組む。
	2	活用	計算カードを整理して並べ，たし算のきまりを見付ける。	(考) カードの数字の並び方や同じ答えに着目して，きまりを見付けることができる。
	3	習得	単元の確かめをする。	(表) 繰り上がりのある1位数どうしの加法計算が，確実にできる。

#### 4 指導上の立場

##### (1) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容A(2)「加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」を受けて設定したものである。

加法計算は、これまでに1位数+1位数、10+1位数、1位数での3口の加法等の計算で、いずれも繰り上がりのない場合を扱ってきた。本単元では、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算の方法について指導する。繰り上がりのある計算は初出であり、次学年以降で学習する加法の筆算の基礎となるものであるから、計算の仕方を確実に理解させ、それを用いることができるようにしたい。ここで扱う計算は、被加数、加数ともに1位数であるが、繰り上がる場所を「10といくつ」ととらえるところが要点となる。そのためには、被加数や加数の大小に応じて「10のまとまり」をどのようにするとつくりやすいかということ判断しなければならない。この計算方法には、加数分解や被加数分解など他にもあり、児童にとってかなり難しいことである。

そこで、被加数をみて加数を分解して10をつくるという、もっとも普遍性のある加数分解の方法を最初に取り上げる。そして、計算に慣れるに従って10のつくり方に弾力性をもたせ、被加数分解を導入していきたい。最終的には、どちらの考えも10のまとまりをつくろうとしているという意味では同じであるということを確認し、数値によって計算する方法を使い分ければよいということを通理解させるようにしたい。

##### (2) 児童の実態

「児童の実態」は削除しています。

##### (3) 研究テーマとの関連

研究テーマ「学び合い ともに伸びる 子どもの育成～伝え合いを大切にした算数の授業を通して～」にせまるために、次のことに留意する。



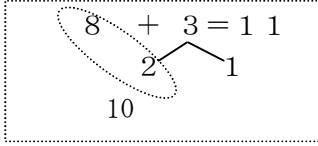
###### ○ 単元全体では

- ・ ペアで、算数ブロックを操作しながら説明したり計算図に表したりする活動を繰り返すことで、繰り上がりのある加法計算の仕方を確実に習得させたい。
- ・ 計算の仕方を分かりやすく伝えるために、「まず」「つぎに」「さいごに」といった順序を表す言葉を使いながら説明させるようにする。
- ・ 前時までの既習事項が、いつでも想起でき活用できるような掲示物を作成し掲示する。
- ・ 単元計画の第3次では、補充や発展的な問題に取り組む時間を設けるとともに、友達どうしで問題を出し合ったりペアやグループで計算カードを使った練習やゲームをしたりして、楽しみながら加法計算の能力を高めていきたい。

○ 本時では

- ・ ペア活動では、「答えと計算の仕方」、「ブロック操作の手順」、「計算図のかき方」を互いに伝え合うようにすることで、加数分解による計算の仕方を一人一人に確実に理解させたい。
- ・ 計算の仕方については、友達の考えを聞き自分の考えをより確かなものに行うことができるように、児童の発言をつなぎながら、何人にも繰り返し説明させるようにする。
- ・ 計算の仕方の確かな習得を図るために、適用題や練習問題をやる時間を確保する。

5 本時案（第1次第3時）

ねらい	ブロック操作を基に、被加数が8の計算でも、加数を分けて10のまとまりをつくれればよいことが分かる。	
学習活動	教師の主な発問と予想される子どもの反応	○教師の支援 ■個への支援
<p>1 前時を想起する。</p> <p>2 問題を知り、めあてをつかむ。</p> <p>3 問題の解き方を考え話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人で</li> <li>・ ペアで</li> <li>・ みんなで</li> </ul> <p>・ ペアで</p> <p>4 練習問題をやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で</li> <li>・ ペアで</li> </ul>	<p>○□+□を計算しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ □の中は、9かな？8かな？</li> </ul> <p>○前の時間の9+4の計算の仕方を話しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>8+3のけいさんのしかたをみつけよう。</p> </div> <p>○ブロックを使って、計算しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えは11だ。</li> </ul> <p>○ブロックを動かしながら、計算の仕方を紹介しましょう。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① </p> <p>10をつくるには8とあと2。3を2と1にわける。</p> <p>② </p> <p>8と2で10。10と1で11。</p> </div> <p>(計算図) </p> <p>○3の分け方に気を付けて、ブロックでもう一度計算をしましょう。</p> <p>○8+5の計算をブロックでして、計算図にしましょう。</p> <p>○ペアで答え合わせをしましょう。</p> <p>○チャレンジ問題Iに挑戦し、できた人どうしのペアで答え合わせをしましょう。</p>	<p>○教師の支援 ■個への支援</p> <p>■支援の必要な児童に意図的に指名し、ブロック操作の手順を言いながら一緒に解決することで意欲をもたせる。</p> <p>○ポイントの「10のまとまり」をつくることと「加数を分けること」を板書し、問題解決の見通しがもてるようにする。</p> <p>■操作が進まない児童の支援に行き、「10のまとまり」をつくることを想起させながら、一緒にブロックを操作する。</p> <p>○ペアでお互いのブロック操作を見せ合うことで、答えと計算の仕方を確かめさせる。</p> <p>○代表児童に説明をさせ、「どうして3から2をもってくるのか」など、操作の意味を問いながら、「10のまとまり」をつくらうとしていることを確認する。</p> <p>○児童の言葉を使って計算の仕方をまとめるとともに計算図も板書し、言葉と計算図、ブロックの操作と計算図とを結び付けて理解が深まるようにする。</p> <p>○ペアでお互いのブロック操作を確認し合い、3を分けて10をつかって計算できたらワークシートに計算の仕方をまとめるように指示をする。</p> <p>○自力解決後、ペアで計算図を確認し合い、お互いにできたらチャレンジ問題ができるようにする。</p> <p>■解決に手間取っている児童には、計算の手順を言いながら一緒にブロックを操作するとともに、全員のワークシートの見取りをする。</p>

